

熱海ゆかりの文化人

【文学・評論】

- 徳富蘇峰 晩年を春日町で過ごし熱海市役所旧庁舎の銘板を揮毫
坪内逍遙 銀座町（もと荒宿）に居を構え跡地付近に坪内逍遙歌碑
のち水口町の双柿舎に移り住み熱海市歌（当時は町歌）を作詞
水口町の海蔵寺に眠る
- 尾崎紅葉 熱海梅園、熱海海岸が登場する『金色夜叉』ゆかりのお宮の松、金色夜叉の碑、貫一・お宮の像、咲見町には使用の筆を納めた筆塚と句碑
- 島崎藤村 横磯ほか市内の風情を『熱海土産』に描く
芥川龍之介 軽便鉄道の敷設工事を舞台に『トロッコ』を著す
太宰治 壇一雄との村上旅館でのエピソードから『走れメロス』を著す
林ガ丘町の起雲閣別館で『人間失格』執筆中に起雲閣にも宿泊
- 船橋聖一 起雲閣で『雪夫人絵図』などを執筆し映画化に際して起雲閣ローマ風呂室での撮影を推挙
- 谷崎潤一郎 西山町、水口町（雪後庵）、伊豆山（後の雪後庵）に居住
伊豆山にて『祀』、『鍵』などのほか熱海が舞台の『台所太平記』も執筆
冬場を熱海で過ごすことを恒例とし滞在中に泥棒にあったエピソード
を『熱海と盗難』に著す
- 永井荷風 戦後の一時期を和田浜南町で過ごし『断腸亭日乗』に詳しく記録
広津和郎 疎開が縁で清水町に居を求め昭和43年に亡くなるまで居住
志賀直哉 大洞台に居住（昭和23～30年）
吉川英治 西山町に別荘を構え弟子である杉本苑子もここに通った
三島由紀夫 新婚旅行で起雲閣に宿泊
佐佐木信綱 西山町に凌寒荘を構え晩年を過ごし旧熱海中学校校歌も作詞

【美術】

- 池田満寿夫 現在の創作の家に佐藤陽子とともに居住し下多賀には満陽工房を開く
桃山町の医王寺墓地に眠る
- 澤田政廣 熱海に生まれ澤田政廣記念美術館のほか市内に釜鳴屋平七の像、コノハナサクヤヒメ像
- 宮本三郎 西山町の凌寒荘に居住
横山大観 晩年を伊豆山の別荘で過ごし大観荘とは縁が深い
竹内栖鳳 湯河原に住んだ縁で保善院に筆塚、爪塚、顕彰碑（碑分は吉川英治）

【映画・演劇・音楽】

- 川上貞奴 晩年を水口町で過ごす
中山晋平 晩年を過ごした西山町の住居は中山晋平記念館として梅園に移築
神彰 海光町の別荘が後に池田満寿夫・佐藤陽子の住まいとなった創作の家